

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名 小野 正子	職名 准教授	学位 修士(看護学)(Oregon Health Sciences University 2002 年)
----------	--------	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	小児 慢性疾患 看護用語(臨床)

研 究 課 題
慢性疾患をもつ小児およびその家族の看護について考察する。 小児看護学の教育方法について考察する。 臨床で使用する看護の言葉について考察する。

担 当 授 業 科 目
小児看護学概論(前期) 必須 小児看護学方法論(後期) 必須 小児看護学演習(前期) 必須 緩和・終末期看護学(前期) 必須 小児看護学実習(通年) 必須 看護総合演習(通年) 必須 看護総合実習(通年) 必須 子どもの保健Ⅰ(通年)福祉学科 必須 子どもの保健Ⅱ(前期)福祉学科 必須 助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)(前期)(助産別科) 必須

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 小児看護学概論 】 小児看護の対象となる子どもや家族の理解を科目目標の大きな柱としている。少子化の時代で、なかなか子どもを観察したり子どもと遊ぶ機会の少ない学生に出来るだけ子どもをイメージしやすいようにビデオやDVDの視聴覚教材を活用した。また、実際の社会の中での子どもがおかれている状況を、子どもの健康という視点から見るよう、雑誌・記事の中から探させ、グループ討議を行い自分の考えを発表する機会を設けた。
授業科目名【 小児看護学方法論 】 この科目は、健康障害をもった子どもの看護の考え方、方法を理解できるよう、1 年次から学んできた形態機能を復習しながら授業を進めた。また健康障害をもった子どもをイメージしやすいように、ビデオや写真、実物などを見せること等で、学生が理解しやすいよう工夫した。
授業科目名【 小児看護学演習 】 演習では、実習前ということで実習で活用できるよう事例検討と技術演習を中心に行った。事例検討では、乳児、幼児期の各発達段階の子どもを対象として、臨地実習で学生が遭遇することの多い症例(国家試験にもよく出題される疾患)を用いて看護過程の展開を行った。また、全員がグループワークに参加するように少人数によるグループワークを進めることにした。昨年度までは、授業が始まったらすぐにグループワークが始めるように、春休みの課題として事前学習を出して基本的知識を復習しておくようにしたが、今年度からは、できるだけ学期内で工夫をして進めるようにした。はじめに全員で事例の見方、アセスメントの仕方を一通り確認した後、グループワークのメンバーで次の事例を考えていくようにした。また、グループファイルを提出し、その都度コメントを返しながら指導を行った。技術演習においては、実際の実習場面を想定できるような

設定をし、技術の習得が確認できるよう技術試験を行った。習得ができていない学生については、全員一定レベルに到達するまで個別指導を行った。
授業科目名【 小児看護学実習 】 病棟実習では、既習の知識・技術・態度が、実際の患児・家族を通して統合されるように関わった。また、助教の先生方の学生への指導が的確に行われるように、日々の報告やカンファレンス、個人面接を通して相談、検討を行い学生への指導に繋がるように調整を行った。また、必要時病院・病棟側とも調整を図った。
授業科目名【 看護総合演習・実習 】 看護総合演習では、小児看護学領域を担当し6名の学生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、自分自身の目標・テーマを実習に連動できるように指導した。演習の目的としては、小児看護の理解を深めるとともに、実習前準備として、実習場で必要とされる知識・技術の振り返りと、自分の選んだテーマに関する文献検索・検討を行いレポートとしてまとめることで、看護を実践するための基盤づくりを行った。演習の中には、地域での小児救急のワークショップに参加したり、学内での3年生の技術演習に参加してもらい、自分たちの技術の振り返りと確認に役立つよう工夫した。演習の進め方としては実習場別のグループ毎に自主的に計画をたてて進め、進行状況がわかるようにポートフォリオを作成活用した。また、実習終了後は、各自のテーマに基づいて作成していた事前のレポートを追加修正したものを、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することができた。 看護総合実習は、大学での最後の実習であり、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習前・中・後と実習内容を検討しながら、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。また、実習記録用紙や評価表も自分たちの目標に沿ったものを各グループ（病棟毎）で作成し、目標の達成度が確認出来るようにした。小児は、実習場が3箇所と他の領域と異なり多いため、目標が絞りにくいところがあるが、それぞれの施設に応じた目標を明確に定められるよう、今後も適宜各実習場の目標の見直しや日数調整等をしていく予定である。
授業科目名【 子どもの保健Ⅰ 】 通年の授業で、子どもの発達を基本に、それに基づいた健康生活を理解できるよう、視聴覚教材を用いて授業を進めたり、現代の子どもの生活や健康の状況を自分たちで調べ発表することで、より理解を深められるように工夫した。
授業科目名【 子どもの保健Ⅱ 】 演習科目で、保育園等で使用するであろう子どもの健康に関する技術を修得できるよう、学生たちの要望も踏まえ実践的な内容を多く取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		976年4月～1985年、1989年～現在に至る
日本看護科学学会会員		1993年～現在に至る
日本小児保健協会会員		1993年～現在に至る
日本学校保健学会会員		1995年～現在に至る
聖路加看護学会会員		1996年～現在に至る
日本看護学教育学会会員		1998年～現在に至る
日本小児看護学会会員		2002年～現在に至る
九州小児看護学教育学会	幹事（2003年～現在に至る）	2001年～現在に至る

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学会発表)				
1. 看護師・助産師・管理栄養士国家試験に含まれる漢字調査	共著	2018.7	第19回日本医療情報学会看護学術大会論文集,p.137-140	相良かおる,橋本直幸,小野正子 看護師・助産師・管理栄養士 国家試験問題冊子 5年分のテキストデータに含まれる漢字調査
2. 実践医療用語の語構成要素抽出の試み	共著	2018.9	言語資源活用コーパスワークショップ 2018 発表論文集, p.462-466	全4頁 内山清子、岡照晃、東条佳奈、小野正子、山崎誠、相良かおる 本研究では複数の語からなる実践医療用語の語構成要素の抽出を試みる。
3. 実践医療用語に現れる語構成要素の辞書構築にむけて	共著	2018.9	計量国語学会第六十二回大会 予稿集, p.7-12	全4頁 東条佳奈、内山清子、岡照晃、小野正子、相良かおる、山崎誠 本発表では、研究利用のために医療機関より提供された医療記録と、国家試験問題に使われている実践医療用語を登録したComeJisyoおよび現在構築中の構成要素辞書を言語資源として紹介し、複数の語からなる実践医療用語の語構成要素抽出の方法を提案する
4. 「UTF版実践医療用語辞書 ComeJisyo1.0の作成」	共著	2018.11	第38回医療情報連合大会,p.508-511	全4頁 相良かおる,小野正子,山崎誠 UTF版の実践医療用語辞書 ComeJisyo1.0の作成と公開
5. 実践医療用語辞書 ComeJisyoSjis-1の作成	共著	2019.3	言語処理学会 第25回年次大会 発表論文集,p.1491-1494	全4頁 相良かおる,小野正子 ComeJisyoV5-1に医師記録に含まれる用語を約4万4千語を追加したShift_JIS版の辞書について述べている。
(翻訳)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
研究利用のためのU T F 版実践医療用語辞書の作成と文字コード依存文字の調査	学内共同研究	○相良かおる、小野正子 (山崎誠)	630,000
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	日本学術振興会	○相良かおる、小野正子 (山崎誠)	3,900,000 (全 13,390,000)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市小児慢性特定疾病対策協議会	委員	2015 年 4 月～ 現在に至る
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2015 年 4 月～ 現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
大学委員会： 研究紀要委員会 学科役割： 3 年生アドバイザー 物品管理係